

# ルネ・バルベラ

取材・文：中東生  
Text: Shinichi Nakai  
Photo: Anna Barbera

## 《セビリヤの理髪師》

### アルマヴィーヴァ伯爵で初来日

主要歌劇場で数々の舞台に出演し、その実力を示してきたテノール歌手のルネ・バルベラが、2020年2月に初来日し、新国立劇場でロッシーニ《セビリヤの理髪師》に出演する。来日を控えたルネ・バルベラに、これまでたびたび演じてきたアルマヴィーヴァ伯爵役について、今後の活動についてお話をうかがった。

## 好きだけれど難しい アルマヴィーヴァ伯爵

世界屈指の安定したテクニックで輝かしい高音を自然に聴かせ、コミカルな表現も上手いルネ・バルベラが2020年2月に初来日し、新国立劇場のロッシーニ《セビリヤの理髪師》でアルマヴィーヴァ伯爵を歌う。スカラ座でドニゼッティ《愛の妙薬》稽古中の9月2日にインタヴューが叶った。「この役は僕にとつて特別なものです。2013年にモスクワで歌ったとき、指揮のアルベルト・ゼツタに『声を聴かせつつ、たつぷり歌いすぎない』頃合いを習いました。とても好きな役ですが、僕にとつては

他の役に比べて難しく、今でも毎回死にそうになって舞台上に立っています(笑)。そのお陰か、今までにアムステルダムやパリなどで多くの成功を得ました。最近低音が成熟してきたので、この役のオフアアを受けるのは今年末までと決めていますから、ギリギリ日本で披露できるのが嬉しいです。伯爵でありながら、学生や音楽教師、酔っぱらいなどいろいろ演じ分けられるのも楽しい役です」

## 実力派テノールが思い描く 今後の夢

メキシコ系アメリカ人のバルベラはフルクローレの歌手を親戚に持ち、「ピアノストトになるには手が小さかった」ため、合唱から歌の道に進んだが、勉強嫌いの彼が「結婚するつもりだった彼女にフラれてから一心発起」し、05年にメトロポリタン歌劇場のコンクール、11年のオペリアなど次々に優勝、聴衆賞も受賞した。ここ数年は世界中で引つ張りだことなり、テオドル・クルレンツイスが指揮したヴェルディ《レクイエム》でも自由に歌わせてもらったという。将来の夢は、シドニー・オペラハウスやコヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラハウスの舞台に立つこと、他のジャンルの歌手たちとのコラボレーションなどを挙げたのち、究極は「玉くじに当たって、B&B(宿泊施設)を開くこと。そうすれば家族や友人に時間が割ける」と、まず家族を大切に思う素顔が覗く。そんな気張らない人間味が彼の自然な歌唱の源なのだろう。初のアジア訪問で大好きな寿司の発祥地に行けることを心待ちにしている彼にとつても、日本の音楽ファンにとつても記憶に刻まれる公演になることだろう。



## ■公演情報

### 新国立劇場《セビリヤの理髪師》

〈日時・会場〉2020年2月6日18時30分/8、11、14、16日14時・新国立劇場〈出演〉ルネ・バルベラ(アルマヴィーヴァ伯爵)、脇園彩(ロジーナ)、パオロ・ポルドーニャ(バルトロ)、フローリアン・センペイ(フィガロ)、マルコ・スポッティ(ドン・パジリオ)、加納悦子(バルタ)、吉川健一(フィオレロ)、新国立劇場合唱団、他〈管弦楽〉東京交響楽団(指揮)アントネッロ・アッレマンディ(演出)ヨーゼフ・E・ケップリンガー(問合せ)新国立劇場03・5352・9999

ルネ・バルベラ(T) René Barbera  
アメリカ出身。シカゴ・リリック・オペラ・パトリック・G・アンド・シャーリー・W・ライアン・オペラセンター修了。2011年オペラリアコンクール3部門を単独で受賞。《セビリヤの理髪師》アルマヴィーヴァ伯爵は、これまでモスクワ・スタニスラフスキー音楽劇場やパリ・オペラ座などで演じてきた。メトロポリタン歌劇場には《アルジェのイタリヤ人》でデビュー。今回が新国立劇場初登場となる。